

85日間ロシア体験 本に

「50歳からの海外留学のすすめ」

京都市で唯一というロシア料理店を父らと一緒に営む加藤美知世さん(51)が、初めての本「50歳からの海外留学のすすめ」私のモスクワ日記」を出版した。じっくり滞在型のいわば「85日間、ロシア周遊」の案内記となっている。

東山の料理店「キエフ」 加藤さん

加藤さんの店は「キエフ」(旧ソ連の古都、現ウクライフ)東山区。1972年に「ナ的首都」と姉妹都市となったため、名付けたという。祖父が自分の出身地である京都の祇園に開いた。その前年、京都市がキエフ市前からロシア語を学び始め



サンクトペテルブルクで購入したロシアの現代画家ガの絵の前で本を手にする加藤美知世さん(東山区)

授業や街巡りレポート

た。何とか日常会話ができるようになってきたので、観光ではないロシア体験を、と昨年9月訪ロ。12週間、85日間のモスクワ大学留学を実現させた。

せっかくだから日々の行動を記録しておこうと、「日記」を付けることにした。本はそれを基に、ホストファミリー宅への到着から、大学での語学授業風景、美術館・オペラ巡り、現地の人たちと再会を約しての帰国までを、興味深くレポートしている。

劇場に向かう途中、何台ものパトカーに囲まれたリムジンが、猛スピードで通り過ぎる。プーチン大統領だと教えられ、「あの速さではスナイパーも狙えないな」。

授業の教科書の中に、ロシアで有名な歌手の「百万本のバラ」の話が出てき

た。「私の叔母(加藤登紀子)も唄っており、この歌は日本でもとても有名ですよ」

サンクトペテルブルクではドストエフスキーの小説「罪と罰」跡を巡るツアーをした。「金貸し老婆の家からラスコリニコフの家まで730歩ということだったが、私の足では850歩以上あった」

「観光ではなく、実際に住んでみると本当の姿がわかる。若いときではなく、人生経験を積んでからだと、より深く観察できるようです」と加藤さん。「失敗談も含めて、この本がロシアに親んでもらえるきっかけになれば」と話す。

本は224頁、ドニエブル出版(072・926・5134)刊。2千円(税別)。(北垣博美)